

## 道徳科の特質についての基本的理解

### 道徳科の目標

道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を(広い視野から)多面的・多角的に考え、自己(人間として)の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

### 授業が成立するための機能

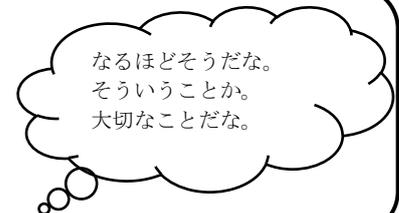
- (1) 扱う道徳的価値についての理解を図る(基盤)
- (2) 自己を見つめる
- (3) 物事を(広い視野から)多面的・多角的に考える(方法)
- (4) 自己(人間として)の生き方についての考えを深める



道徳的判断力、道徳的心情、道徳的実践意欲と態度

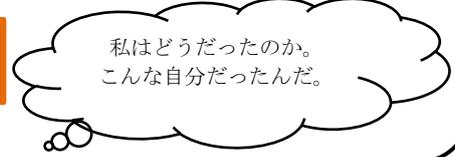
#### ◆道徳的諸価値について理解する

- ◎人間としてよりよく生きる上で大切なことであると理解すること。
  - ◎道徳的価値の意味を捉えること、その意味を明確にしていくこと。
  - ◎実感を伴って道徳的価値のよさや大切さ、意義などを理解すること。
- ※観念的な理解の学習に終始しないこと



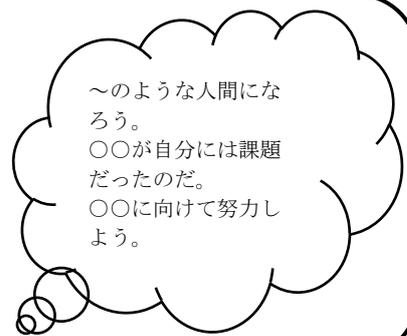
#### ◆自己を見つめる

- ◎人間としてよりよく生きる上で大切な道徳的価値を自分のこととして考えたり感じたりすること。
- ◎自己を見つめるとは、自分との関わり、これまでの自分の経験やそのときの考え方、感じ方と照らし合わせながらさらに考えを深めること。
- ◎道徳的価値に基づいて内省すること。
- ◎真摯に自己と向き合い、一個のかけがえのない人格としてその在り方や生き方など自己理解を深めていくこと。



#### ◆自己(人間として)の生き方についての考えを深める

- ◎道徳的価値の理解を自分とのかかわりで深めたり、自分自身の体験やそれに伴う考え方や感じ方などを確かに想起したりすることができるようにする。
- ◎伸ばしたい自己やこれからの生き方の課題を考え、それを生き方として実現していこうとする思いや願いを深めること。
- ◎人間についての深い理解と、これを鏡として自己を深く見つめることとの接点に、生き方の自覚が生まれる。



道徳性

道徳的判断力	それぞれの場面で善悪を判断する能力
道徳的心情	善を行うことを喜び悪を憎む感情 よりよい生き方を志向する感情
道徳的実践意欲	道徳的価値を実現しようとする意志の働き
道徳的態度	道徳的行為への身構え

日常生活や今後出会うであろう様々な場面、状況においても、道徳的価値を実現するための適切な行為を主体的に選択し、実践することができるような内面的資質を意味している。道徳性は、徐々に、しかも着実に養われることによって、潜在的、持続的な作用を行為や人格に及ぼすものである。

心の灯